

1 情勢報告

○ユズの冬越しに向けた現地検討会を開催しました（11月30日から12月7日）

JA津野山ユズ部会



ユズの防寒対策風景

JA津野山ユズ部会は、ユズ苗木の冬越しに向けた現地検討会を開催しました。ユズの現地検討会は今年度で3回目で、広い管内に散らばっている農家のために8地区・15ヶ所に分けて行い75名の生産者が参加しました。JA担当と振興センターから今後の栽培管理を説明し、苗木の防寒対策方法の実演も行いました。

振興センターは今後とも、JA担当と連携しながら、平日参加が難しい部会員に対して土曜日曜の開催も検討するなど、よりきめ細かい栽培技術の講習や巡回を行い、安心してJA馬路村に買ってもらえる産地作りに向けた取り組みを支援していきます。

○集落営農先進事例地調査を実施しました。（12月10日）



（農）加茂ファーム

集落営農の先進事例から、目的に応じた組織体制や経営の考え方等について学び、今後の組織運営や、集落営農の組織化等に活かしてもらうために、こうち型集落営農に取り組む芳生野百石営農生産組合と、梶原町越知面地区農家、管内市町・JA担当者と共に、愛媛県宇和町で事例調査を行いました。

（農）加茂ファームは、集落農業・農地の維持を目的に米・麦・大豆・ソバのブロックローテーションを行ってきましたが、後継者の確保できる所得を上げるために、近年野菜栽培を始め、近隣組織との統合も模索しているとのことでした。

（有）新城生産組合は、特定農業団体に築いた集落の信頼を基盤に、当初から給料の払える組織を目指して設立され、大豆加工品のブランド確立等、資金繰りに留意した、所得の得られる事業を作り上げていました。

出席者から、組織体制、役員・雇用者への報酬、組織運営等について質問が出て、いかに収益を上げるかについて参考になった等の感想がありました。

今後は、関係機関と連携しそれぞれの目的に応じた集落営農の推進を支援します。

○JA土佐くろしおニラ部会の現地検討会が開催されました（12月14日、16日）



須崎地区と中土佐町地区で「まとまりのある園芸産地育成事業」にかかる現地検討会が開催されました。篤農家からは、厳寒期に向けての栽培管理上の注意点として特に白斑葉枯病対策のポイントを披露してもらいました。振興センターからは、厳寒期の管理作業と新病害「褐色葉枯病」の須崎地区での発生状況等について説明をしました。

また、篤農家からの呼びかけで参加者全員の今年の生育状況の確認や栽培技術の交換が行われ、一定篤農技術の移転・普及ができました。

今年度の現地検討会は、来年2月に最終4回目を開催する予定ですが、今後ともJA担当と連携し、現地検討会を篤農技術の伝達・普及の場として活用し、ニラ農家の生産安定につなげていきます。

1 情勢報告

○JA土佐くろしおミョウガ部会の現地検討会を開催しました

(11月29日から12月16日)



新庄地区における現地
検討会

「まとまりのある園芸産地育成事業」にかかるミョウガ部会現地検討会を5地区7ヶ所で開催しました。

1回目の現地検討会となる神田地区では10名の参加があり、生育初期の栽培管理について技術交換をしました。篤農家からは厳寒期の温度管理の考え方や換気窓の設定方法について具体的に情報提供をしていただきました。振興センターからは損益分岐点をグラフ化し、経営面からの目標収量の達成を呼びかけました。

振興センターは、1月～3月にかけて篤農家やJAと連携し、2回目、3回目の現地検討会を実施します。また、生産者に期待される技術や情報交換の場となるように今後も努めます。

○JA土佐くろしおキュウリ部会の現地検討会が開催されました

(12月3日、9日)



須崎地区で「まとまりのある園芸産地育成事業」にかかる現地検討会が4カ所で開催されました。

今回が今年度2回目の現地検討会で、篤農家の現在の管理を実際の生育みながら確認し、また、厳寒期に向けた栽培管理について意見交換をしながら生産技術の習得を図りました。

本年は、定植後も気温が高く続いたため、栽培管理が難しいこともあり、活発な意見交換がなされました。

なお、1月と2月にも現地検討会予定しており、振興センターは篤農家やJA担当と連携しながら、現地検討会を篤農技術の伝達・普及の場として活用し、生産技術の向上につなげていきます。